



さんが

第一三〇号

令和 八年

西暦 二〇二六年

孟蘭盆七月号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三一-五七二五

E-MAIL sanga@tounji.net

修証義の話し

(1)

今回から少しずつ、「修証義」を紹介してまいります。

生を明（あき）らめ死を明（あき）らむるは
仏家（ぶっけ）一大事の因縁なり。

これは「修証義」冒頭の一文で、全体を通しての、大きなテーマになっています。

この世に生まれること、最後その命を終えることを、明らかにするのが、仏教のいちばん大事なことでであると宣言されています。

もともと仏教は、お釈迦さまの「若い自分が、いずれ老いて命を終えるという恐れを、どうしたら克服できるか」という疑問から始まりました。

そこから、「老いと死からは逃れられないのに、逃れようとして苦しんでいる」という発見に至り、「限りあるからこそ、

その時間をたいせつにできる。たいせつにできたなら、安らかさと幸せの中で生きることができると、お説きになりました。

思えば、この世に生まれ出てくることは、自分の思い通りのことではありません。

「気づいたら、この世で生きていた」のです。

そしてこの世に別れを告げることも、自分の思い通りにはいきません。

生を明らめ死を明らめるとは、自分の生、自分の死を見ることです。

それは怖く、勇気のいることだと思います。しかし、そこにしか、いずれ老いて命を終える恐れを克服する方法はないのです。そこを明らかに見て生きること、自分の安らぎや幸せを得ることができる、というのが、ここで言われていることです。

これは、もし、ほんとうに幸せになりたいならば、幸せを、自分の人生の他に探す必要はない、自分の人生の中にしか自分の幸せは見つからない、という言い方にもできます。

では、限られた時間をどのように生きれば良いのか。ヒントは、このあと、修証義全章にわたって書かれています。少しずつご紹介していきます。



曹洞宗公式サイトでの、「修証義」紹介です。
こちらぜひご覧ください。

お盆の施食会法要

七月八日（水）午前十時からです。

夏のご法話に亀岡市昌樹院ご住職、大井龍樹老師にお出で頂けることになりました。

長く、曹洞宗教化センターという、現場でご活躍なされてきた和尚さまで。みなさまどうかおそろいで、楽しみにお出でくださいませ。

子ども参禅 岐阜行きです

今年は岐阜県関市の、龍泰寺さまへの参禅旅行です。坐禅の体験を通して、夏の生活を整えましょう。

日時 七月二十七日（月）～二十八日（水）
参加費 五、〇〇〇円

秋の団参 飛騨高山です

恵那の長国寺さまに参拝し、奥飛騨温泉に泊まる旅です。高山や、郡上八幡も観光します。

日時 十一月十八日（水）～十九日（木）
宿泊 奥飛騨ガーデンホテル焼岳
参加費 三五、〇〇〇円



春のお便りでも触れましたが、住職徒弟慧亮（けいりょう）と綾乃（あやの）が、この五月東運寺本堂にて、仏前結婚式を挙げました。

未熟なふたりですが、ともに歩いて行く姿を暖かく見守っていただければ幸いです。どうかよろしくお願い申し上げます。



↑ ホームページ



↑ お寺の日常

東運寺ホームページは→

京都 東運寺

検索